

事業所名

アドナース京都音楽療法センター

支援プログラム

作成日

R6 年 10 月 18 日

法人 理念	「ギフトで創る笑顔の未来」
事業所 理念	「つながる力を育む」

支援方針	音楽療法を中心とした活動を通して、児の思いを引き出すこと。どんな表情も、本人の自己表現としてまずは受け止めること。 個別音楽療法 30分/回（成人～60分）：平日午後、土日 / 集団音楽療法 60分/回：火曜、水曜、金曜 10:30～11:30
------	---

営業時間	10 時 0 分から 17 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし （平日午前のみ、要相談）
------	-----------------------	---------	--------------------

		支 援 内 容	音楽療法とは
本人支援	情緒的健康	自己表現の促進、自尊心の向上、自己達成感・自己効力感の獲得 ex：即興音楽活動を通して自分の表現を肯定・受容してもらう経験を積む。	<p>●音楽療法とは</p> <p>音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること。（引用：日本音楽療法学会公式サイトより）</p> <p>●ノードフ・ロビンズ音楽療法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年8月「ノードフ・ロビンズ クリニック」認定（仮）</li> <li>・作曲家・ピアニストのポール・ノードフと障害児教育者であるクライブ・ロビンズによって創始された音楽療法アプローチの一つ。</li> <li>・「即興演奏」を中心に展開することが特徴。</li> <li>・「創造的音楽療法」とも呼ばれ、治療として音楽を創造する過程を重視している。</li> </ul>
	運動・感覚	身体機能の維持や改善、コントロール力の向上、聴覚・視覚・触覚などの感覚統合機能の向上 ex：身体機能に応じた楽器の使用。楽器演奏を通して様々な身体動作を促す。	
	認知・行動	注意力や判断力の促進や向上、集中力の維持 ex：歌詞や音楽のフレーズに応じて楽器を鳴らし分ける。	
	言語 コミュニケーション	コミュニケーション能力の向上 ex：歌唱活動。簡潔なフレーズを繰り返し用いた歌いかけによる活動。	
	人間関係 社会性	社会性・協調性の獲得、よりよい対人関係の構築 ex：セラピストとの共有体験をもつ。物事に対する柔軟性を体験する。	

家族支援	音楽療法セッション内での変化を日常生活に繋げる。 ex：必要に応じた保護者面談、セッションのまとめビデオの作成。	移行支援 地域支援	進級・進学など、必要に応じて引継ぎ資料の作成。
------	---	--------------	-------------------------

職員の質の向上	定期的な研修の実施。スーパービジョンの実施。名古屋音楽大学大学院ノードフ・ロビンズ音楽療法トレーニングコースへの在籍…など。
---------	--

主な行事等	夏祭り、クリスマス会、文化祭
-------	----------------